ポプラの綿毛

(P)

2023(令和 5)年10月1日発行 Ver.20 2023年(令和5年)10月号

> 発 行: 北海道大学 環境健康科学研究教育センター

> > 研究代表者:岸 玲子

みなさん、こんにちは!いつも研究にご協力いただき、ありがとうございます。 今回は、よくいただくご質問についてお答えします。

北海道スタディはいつまでつづくの?・ ご自身に継続の可否をお尋ねさせていただきます。

■北海道スタディって?

いつも調査にご協力いただきありがとうございます。「環境と子どもの健康に関する研究・北海道スタディ」(以下、北海道スタディ)は、2001年の調査開始以来、保護者さまにご協力いただき、我々を取り巻く環境(化学物質や無線通信、生活環境等)が、子どもたちの健康にどのような影響があるのかを明らかにする目的で調査を継続してきました。

私たちが研究チームです!



■続けるとどんなことが分かるの?

調査の意義



同じ調査でも、過去に起こった出来事を思い出して 回答するよりも、最近のことを回答する方が、調査の 結果が科学的により正確になるということが分かって います。

これまでの調査にご参加いただいたお子さまを対象に青年期以降の調査を行うことで、環境が健康 (アレルギー、肥満、メンタルヘルスなど) に及ぼす 影響が明らかになる可能性が高いのです。

海外の出生コホートの例







ヨーロッパでも、北海道スタディのような出生コホート研究が進められています。イギリスのALSPAC(Avon Longitudinal Study of Parents and Children)や、オランダのGeneration Rでは、調査に参加したお母さまから生まれたお子さまの次の世代についての調査も続いています。地域や環境が違うと、環境や健康の問題は異なってきます。北海道スタディは皆さまのお陰で、日本初、アジアでも珍しい歴史の長い調査としてこれまで続けてくることができました。

■参加するにはどうしたらいいの?



お子さまが18歳のお誕生日を迎えられたときに、保護者の方に調査継続の意思確認に関する書類が届きます。お子さまにお渡しいただき、まずは調査への参加可否を登録する書類を返送していただきます。

ご依頼する調査は、質問票調査、対面での健康状態の調査、生体試料によるバイオマーカーや化学物質の測定などを予定しています。協力可能なものにご協力いただけますと幸いです。

(文責:田村菜穂美)

WEBサイトをご確認ください!

情報公開をしています

皆様からいただいた情報や生体試料を匿名化して行う研究について、WEBサイトの「お知らせ」で情報公開を行っています。これらの研究について、データ使用を望まれない方がいらっしゃいましたら、ご連絡ください。





チェックしてね

函館で初の 北海道スタディ 講演会を 開催しました 2023年2月4日(土)、函館で初めての 北海道スタディ講演会を行いました。

当日の講師は、当センターより特任教授 宮下 ちひろと特任講師 山﨑 圭子がつとめました。 また、今回は調査協力をいただいている、えんどう桔梗マタニティクリニック院長の遠藤 力先生にもご出講いただきました。



当日は電波測定のデモンストレーションなども含め、プログラムの内容についてお伝えしました。「研究の最新データを見ることができて良かった」「幅広いお話、あっという間の有意義な時間でした」「救命のことを知ることができて良かった」等のお声をいただきました。パネルディスカッションではご質問も多くいただき、私たちもこのような場を持て、大変充実した1日となりました。



PROGRAM

北海道スタディとは? 特任教授 宮下 ちひろ

北海道スタディでわかったこと 特任講師 山崎 圭子

産科の 10 年の進歩について えんどう桔梗マタニティ 遠藤 カ 先生

見学会を行いました

参加者様よりご希望があり、 実施の運びとなりました!



2023年3月28日(火)、当センターにて見学会を行いました。

北海道スタディのご紹介や、事務局と実験室の 見学、研究者との座談会、検体測定の見学や 体験などにご参加いただきました。



「『研究職とはどのような仕事なのか?』を研究者に直接質問でき、 有意義な時間になった」というご感想をいただきました。 北海道スタディの調査参加者様が大きくなられ、こうして交流を持てることを 私たちも大変嬉しく思っております。

新しい研究員をご紹介します

Ammara Ajmal [博士研究員]

私はパキスタン出身の Ammaraです。医師であり研究者です。これまで子どもたちの心の健康と幸福のために働いてきました。未来の世代のために "a world of possibilities (すべての人にすべての可能性をもたらす世界)"を作れるよう貢献したいです。



曾 怡 訪問研究員が受賞しました

曾 怡 訪問研究員(保健科学院)が、2023年3月 第93回日本衛生学会学術総会において、北海道スタディを基にした研究により若手優秀発表口演賞を受賞しました。受賞講演の演題は、「リン系難燃剤曝露と学童の喘鳴及びT2バイオマーカーとの関連」です。



池田 敦子教授(左)と曾 怡 訪問研究員

お手元に残っている質問票はありませんか? >>

「回答時期から結構たっちゃったけど…」という場合も、ぜひご返送いただきますようよろしくお願いいたします。

お問合せ先 2011-706-4749

(紛失等の場合)™ kodomo@cehs.hokudai.ac.jp





いつも研究にご協力いただき、誠にありがとうございます。

北海道スタディ:https://www.cehs.hokudai.ac.jp/hokkaidostudy/ 環境科学研究教育センター:https://www.cehs.hokudai.ac.jp/

